

[293]

氏 名 (本籍)	<sup>すず</sup> 鈴 <sup>き</sup> 木 <sup>たけし</sup> 岳 (東 京 都)		
学 位 の 種 類	博 士 (スポーツ医学)		
学 位 記 番 号	博 甲 第 4756 号		
学位授与年月日	平成 20 年 3 月 25 日		
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当		
審 査 研 究 科	人間総合科学研究科		
学 位 論 文 題 目	データマイニングを用いたトップアスリートのコンディショニングに関する研究		
主 査	筑波大学教授	博士 (医学)	宮 川 俊 平
副 査	筑波大学教授	医学博士	河 野 一 郎
副 査	筑波大学准教授	博士 (医学)	向 井 直 樹
副 査	筑波大学准教授	教育学博士	西 嶋 尚 彦

## 論 文 の 内 容 の 要 旨

(目的) スポーツにおいて大会などの試合に応じて身体の状態を評価し最高の状態に持っていく方法を研究すること

(対象と方法) 対象はスキーマーグル競技と陸上長距離の日本代表あるいは候補選手である。方法は身体の状態を評価すべきリストを作成し 1 シーズン毎日記録し、これらのデータを「データマイニング」で処理し、一人一人のコンディションに関わる因子を抽出しコンディショニングの指標を検討する。

(結果) それぞれの選手のコンディションを決定する因子は異なっていることがわかった。コンディションを決定する因子から選手の状態を評価することで試合期に選手にとって「ベスト」の状態にコンディションを持つていくことができた。

(考察) 評価リストから得られるデータは多く、それらの中からどの項目が選手のコンディションを決定しているかを見つけることは難しい。しかし、「データマイニング」という手法でそれらのデータを処理することで選手個々のコンディションを決定する因子を見つけ出すことが可能となった。評価リストの項目を吟味する必要はあるが血液検査や画像検査などの客観的な方法よりは簡便で、選手がどこにいてもコンディションを評価することが可能になった。

## 審 査 の 結 果 の 要 旨

選手の状態を簡便な方法でできるだけ正確に把握できる方法と考える。対象・方法そして導き出された結果らの考察も科学的な根拠に基づいて行われていた。

学位論文審査委員会において審査委員全員出席のもとに論文について説明をもとめ、関連事項について質疑応答を行った結果、審査委員全員によって合格と判定された。

よって、著者は博士 (スポーツ医学) の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。